

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西森 和広	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	前期は共通教育科目2科目、学部専門科目4科目、大学院科目1科目、後期は共通教育科目3科目、専門科目5科目を担当する。		0.50	前期は共通教育科目2科目、学部専門科目4科目、大学院科目1科目、後期は共通教育科目3科目、専門科目5科目を担当した。他に卒業論文の指導、二年次専攻生の指導教員を務めた。	
研究	0.40	ヴェルレーヌ研究を推進する。レオーネ研究並びに映画史関連研究を継続する。フランス語新文法書作成のための共同プロジェクトを継続・推進する。論文または研究ノート一点以上を発表する。		0.25	ヴェルレーヌ研究ははかばかしい進捗を見なかった。レオーネ研究並びに映画史関連研究において、研究ノート一点を発表した。フランス語新文法書作成のための共同プロジェクトは、大きな進捗を見なかった。	
社会 貢献	0.05	琉球大学びぶりお文学賞(附属図書館主催)小説部門選考委員を務める。日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員を務める。		0.05	琉球大学びぶりお文学賞(附属図書館主催)小説部門選考委員を務める。日本フランス語フランス文学会九州支部運営委員を務めた。	
管理 運営	0.15	学士教育プログラム委員会委員、法文学部教育委員会委員、ヨーロッパ文化専攻課程主任、新学部組織編制WG委員、その他委員会委員を務める。		0.20	学士教育プログラム委員会委員、総合情報処理センター教育広報委員会委員、法文学部教育委員会委員、ヨーロッパ文化専攻課程主任、新学部組織編制WG委員、30年度入学試験小論文作成担当委員他を務めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 厚子	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	<p>今年度前期は通常の共通教育科目・専門科目に加え「海外文化研修」を提供・企画し、夏休み期間中に実施する。また研修の事前学習・準備として授業内外での学生支援を行う。また、5～7月にかけてフランスの協定校から教育実習生を受け入れるため、研究・生活をサポートする。</p> <p>後学期は「海外文化研修」に参加した学生の学習動機を維持することを心掛けた事後学習プログラムを提供する。</p>		0.70	<p>今年度は、夏期休暇中にトゥルーズ大学における語学研修を含む「海外文化研修」を行うため、前期は事前学習、オリエンテーション、協定校との調整、旅行の手配などを行った。また、5月～7月末まで同大学より教育実習生を受け入れ、研究・生活の支援を行った。後期は、研修の報告会開催、報告書の作成などを行うとともに、学生の事後学習のサポートを行った。また研修のために戦略的教育経費を獲得し、学生の旅費、帰国後の語学検定試験料の支援を得ることができた。</p> <p>その他、前・後期各5コマの授業と卒論指導を担当した。</p>	
研究	0.40	<p>19世紀におけるフランスと琉球の交流史について研究を行う。今年度は特に宣教師の活動と琉球政府の対応について調査を深める。その結果を論文にまとめ発表する。同時に、フランス語史料の翻訳を進める。</p>		0.20	<p>19世紀に琉球に来たフランス人宣教師の文書の出版に向けて、翻訳の確認等を行った。</p> <p>他大学のフランス語教員らとのフランス語教科書の出版に向けて原稿執筆を進めた。</p>	
社会 貢献	0.05	<p>共通教育科目「インテンシブフランス語Ⅲ・Ⅳ」と「フランス語圏文化入門」を公開授業として提供する。また、実用フランス語検定試験やDELTAの実施・試験監督を担当し、フランス語学習の県内での普及に努める。</p>		0.07	<p>「インテンシブフランス語Ⅲ・Ⅳ」と「フランス語圏文化入門」を公開授業として提供した。また、実用フランス語検定試験(春季・秋季)とDELTA(秋季)の実施・試験監督を担当し、フランス語学習の県内での普及に努めた。</p>	
管理 運営	0.05	<p>学部入試委員、自己評価委員を務める。全学国際交流自己点検・評価委員会にて学部委員を務める。国際沖縄研究所併任教員として編集委員を務める。</p>		0.03	<p>学部入試委員、自己評価委員を務めた。全学国際交流自己点検・評価委員会にて学部委員を務めた。国際沖縄研究所併任教員として編集委員を務めた。</p>	
計	1.00			1.00		
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>				<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。      <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		DELBARRE FRANCK	所 属		法文・ヨーロッパ言語文化専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.60	週11回授業を行い(ラテン語の授業と海外研修を含める)、その準備や定期的小テストの採点とともに、学生のフランス語資格取得支援、卒論指導など			0.60	大体予定通りに実行できました(卒論指導はありませんでした)。フランス海外研修も最高に主催できました。学部改革に伴い、来年度の授業の中身を春から考えなおす見込みです。		
研究	0.20	フランス地方言語についての論文とフランス語教育についての論文発行予定、書物執筆作業			0.20	フランス地方方言に関する論文は発行できました(現在はもう一本執筆中)。フランス語教育に関する論文も書物もまだ執筆中ですが、9月に京都大学に主催された国際フランス語教育学会において研究発表をしました。		
社会 貢献	0.00	琉球大学においてフランス語の公開授業(週3回あり)			0.00	公開授業は通常授業と合併なので、特に手間がかかりません。目的は達することができました。来年度もさらに多くの公開授業を提供することになりました。また、仏検監督と審判を3度やっています。		
管理 運営	0.20	法文学部将来企画委員会、遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員、沖縄外国文学会編集員、日本フランス語教育学会編集員			0.20	それぞれの業務を遂行した。また、入試面接や入試監督などにも参加しました。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木正士	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	卒業論文作成を指導する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかったりするなど、学生の就職意識を高める。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行う。		0.40	卒業論文作成を指導した。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促した。レポートの書き方を指導した。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じた。学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言した。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかったりするなど、学生の就職意識を高めた。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行った。			
研究	0.20	2017年夏スペイン国マドリッド大学で開催される国際黄金世紀学会において、『ドン・キホーテ』に関する発表をおこなう。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が滞りなく出版されるよう努力する。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳し発表する。		0.20	2017年夏スペイン国マドリッド大学で開催された国際黄金世紀学会において、『ドン・キホーテ』に関する発表をおこなった。翻訳を終了したセルバンテス『模範小説集』が水声社より出版された。スペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を引き続き翻訳し大学の紀要に発表した。			
社会 貢献	0.10	「インテンシブスペイン語I・II」を公開授業として提供する。		0.10	「インテンシブスペイン語I・II」を公開授業として提供した。			
管理 運営	0.30	教育委員会、教員養成委員会、さらに進路支援委員会の一員としての任務に努める。		0.30	教育委員会、教員養成委員会、さらに進路支援委員会の一員として働いた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 清	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.55	1)前期・後期で14コマ程度の講義を担当 2)ITツールをスペイン語会話の授業に導入 3)海外文化研修の参加条件の見直し 4)スペインへの留学希望者に対してカウンセリングを行い、スペインからの留学生と日本人学生の交流を促進する		0.55	全ての目標を達成できた。 2)については、スペイン語オンライン教材「Hablamos」を導入した。			
研究	0.25	1)「越境的ネットワークの発展と拡散に関する社会心理学的研究(基盤研究(C)研究代表者:加藤潤三)」の研究分担者として、県人会ネットワークに関する調査のまとめを行う 2)本学における移民研究・島嶼研究の推進に携わる		0.20	概ね達成した。			
社会 貢献	0.10	1)「インテンシブスペイン語Ⅰ」を公開授業として社会人へ開放する 2)NHK国際放送と協力し、日本の文化・社会についてスペイン語で発信する 3)沖縄スペイン協会での活動を始め、沖縄におけるスペイン語圏文化の発信に貢献する 4)スペイン語能力試験「DELE」を国際教育センターの共催で実施する		0.10	1)、2)予定通り行った。 3)沖縄県立美術館で開催された「サンティアゴ巡礼」についての写真展の企画に携わった。 4)予定通り行った。			
管理 運営	0.10	1)予算委員として専攻の運営にあたる 2)広報委員として、学部案内の作成に携わる 3)国際地域創造学部(仮称)の教育運営ワーキンググループに参加		0.15	予定通り行った。特に3)の新学部に関わる業務については、当初の目標を超える達成があった。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮平 勝行	所 属		法文学部 国際言語文化学科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	学部及び大学院(前期・後期課程)の講義をシラバスに基づいて計画的に行う。学部教育においてはアクティブ・ラーニングを採り入れ、学生の自発的学習を促す。留学生も受講できる英語講義を提供し、日本人学生との共学を図る。大学院教育においては受講生が国際的な視野を養えるように日英両文献を用いて講義を行う。大学院生(1人)の修士論文指導を丹念に行う。教育実習に参加する学生を励まし、研究授業へ参加する。学科・専攻が一丸となって取り組む就職・進学に関する啓蒙活動に協力する。			0.40	学部教育(共通教育1コマ、専門教育5コマ)と大学院教育(6コマ)をシラバスに沿って計画通り実施した。「口頭英語表現I, II」は公開授業として一般市民も受講した。英語講義の一環として留学生にも開放したこともあり、多様性に富んだ活発な講義となった。専門教育は英語の教科書を用い、受講生の英語力と専門知識の両方を伸ばすよう努力した。博士前期課程の学生一人の主査を務め、博士後期課程では二人の学生の副査を務めた。博士後期課程の学生の一人は優秀な成績で課程を修了した。教育実習などの学生支援にも積極的に参加した。		
研究	0.30	沖縄語の言語景観に関する論文をまとめ、「ことばと社会」に投稿する。昨年度で終了した基盤研究(C)「継承沖縄語と大和沖縄語—談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」の成果報告書をまとめ、集大成となるような論文を発行する。併せてCOC事業の一環として行ってきた英語による講義のデータを分析し論文にまとめる。			0.30	「沖縄語(うちなーぐち)の商品化と言語景観」という題目で『ことばと社会19号』に論文を上梓した(ピーター・ペトゥルーチ氏と共著)。基盤研究(C)「継承沖縄語と大和沖縄語—談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」は成果報告書をまとめて提出したが、集大成の論文は仕上げていない。5年間継続したCOCプロジェクトの一環である英語講義は成果報告書を共同でまとめた。		
社会 貢献	0.10	英語による講義を公開授業として一般に開放する。また、「教授言語としての英語」及び「内容・言語統合型授業」に関する研究分野の専門家をお招きして公開講演とワークショップを主宰する。英語ストーリー・コンテストや英語ディベート・コンテストなどで審査員(長)を務め、中高生の英語運用能力の向上を支援する。			0.10	英語による講義を一般に公開したところ、3人が受講し、他の学生や留学生と共に積極的に学んだ。COCプロジェクトの一環として、ドイツからSusanne Gundermann氏をお招きし、「教授言語としての英語」及び「内容・言語統合型授業」に関する講演とワークショップを主宰したところ、一般からも多くが参加した。本年度も中・高校の各種英語コンテストの審査員を務めた。		
管理 運営	0.20	新学部の発足に向けてワーキンググループの一員として円滑な組織改編に尽力する。複数の入試関連業務に携わり、委員会活動を取りまとめる。英語文化専攻が学生や非常勤講師に提供しているパソコンなど情報機器の管理に取り組む。			0.20	新学部入試広報検討WGの一員として新体制の整備と学外での広報活動に尽力した。また、専攻の入試委員として、年間を通して実施される入試や学内試験の運営にあたった。全学入試点検委員として、学内で行われる全ての筆記試験を数回にわたって点検した。入試世話人としては、各試験にあたって業務を委嘱する際に公平になるよう留意した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石原 昌英	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の英語力向上を目的とする授業については、対象学生の専門分野と英語力に応じた講義を行う。</li> <li>学部高年次学生及び大学院を対象とした社会言語学分野テーマを扱う授業では、これまでの研究を教育に還元できるようにする。</li> <li>博士前期課程1年の指導学生の研究テーマ・研究方法・研究計画について適切な指導を行い、学生の研究が進展できるようにする。</li> <li>博士後期課程2年の指導学生のデータ収集・分析及び先行研究の分析について適切な指導を行い、学生の研究が進展できるようにする。</li> <li>博士論文執筆中の学生については、査読誌への投稿論文へのアドバイスを行うとともに、期限内に論文提出ができるよう適切な指導を行う。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メディアの英語」ではNew York Times, Washington Post, Japan Timesを読ませ、記事の内容に関するグループでの議論、教員の説明により、内容をより深く理解できるようにした。「少し難しかった」というコメントがあった。</li> <li>学部・大学院の社会言語学系の科目では、琉球・ハワイの言語衰退と言語復興について講義し、これまでの研究に基づいた具体例をあげることで学生の各授業のテーマに関する理解を深めた。</li> <li>大学院の指導学生についてはそのレベルに応じて指導し、学生の研究計画が進展するようにした。</li> <li>博士論文の提出があった。</li> </ul>
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球諸語の復興・再活性化に向けた研究を進展させる。</li> <li>昨年度進展がなかった、琉球とハワイにおける西洋人と現地人との言語接触の研究を進展させる。</li> <li>収集済みの黒人英語(Ebonics)に関するデータの分析に着手する。</li> <li>研究分担者として参加する科研費(基盤研究B)について、沖縄、グアム及びハワイにおける米国の言語政策及びその受容についてデータを収集し、分析を行う。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球諸語の復興・再活性化については、文化庁委託の研究プロジェクトの代表として共同研究を進めた。プロジェクトでは、「しまくとぅば劇の効果」について調査し、報告書で2編の論考を発表した。また、Patrick Heinrichとの共著論文Ryukyuan Languages in JapanがCorinne A. Seals and Sheena Shah (eds.) <i>Heritage Language Policies around the World</i> (Routledge)で発表された。</li> <li>科研費研究については、『言語文化研究紀要 Scripsimus』第26号に「米国軍政府・民政府の「世界語としての英語」の普及プロパガンダ」を発表し、先行研究の分析を行った。</li> <li>言語接触に関する研究及び黒人英語に関する研究は進展がなかった。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県のしまくとぅば復興に向けた取組について研究者として支援する。</li> <li>小学校教員が英語教師の教員資格免許を取れるようにするプロジェクトに参加する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁の「危機言語・方言に関する研究協議会」に委員として参加し、また北海道大学で開催された文化庁主催の「危機言語・方言サミット」にパネリスト(コーディネーター)として参加した。これらの活動を通してしまくとぅば復興を支援した。</li> <li>小学校教員の英語教員免許取得のためのプロジェクトでは、「英語の音声・語構造」について講義した。</li> </ul>
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>法文学部の教育研究評議員及び副学部長として、関連のある学部委員会等での職責を果たすとともに、学部長を補佐し、円滑な学部運営が行われるようにする。</li> <li>平成30年度に計画されている法文学部及び観光産業科学部の改組に関係する委員会・WGに参加し、改組時に問題がないように必要な準備に努める。</li> <li>全学の委員会において積極的に発言し職責を果たす。</li> </ul>		0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>法文学部の評議員・副学部長として学部及び全学の委員会で職責を果たした。</li> <li>学長及び理事の指名で委員会・WGに参加し、全学の運営に貢献した。</li> <li>平成30年4月に開設される「国際地域創造学部」の準備に向けたWG等に参加した。</li> <li>学長から国際地域創造学部の学部長予定者に指名され、プレ協議会及びプレ教授会の議長を務めた。</li> </ul>
計	1.00			1.00	

\*当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石川 隆士	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	1)大学院前期週1コマ、後期週1コマ、学部前期週8コマ、後期3コマ、計13コマの授業を行う。(2)大学院科目、学部専門科目の「イギリス文学研究II」、「イギリス文学演習II」は専門領域である英文学について平成28年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。(3)修論指導の大学院生に進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。			0.30	予定された業務はすべて実行され、卒業論文指導(3名)が追加された。		
研究	0.30	平成27年度科学研究費、挑戦的萌芽研究「風の詩学: 竖琴と螺旋」の研究を推進し、少なくとも「風の詩学」に関する研究発表を1件実施し、論文を1本執筆する。			0.30	予定された業務はすべて実行された。		
社会 貢献	0.10	(1)IRコンソーシアム事業を通じて、琉球大学IR事業の進展および英語教育の広報に努める。(2)琉大コミュニティキャンパス事業本部員として琉大の地域貢献事業に貢献する。			0.10	予定された業務はすべて実行され、加えて出前講座1件を行った。		
管理 運営	0.30	学長補佐(教育担当)として全学的な教育に関する企画立案及び運営を実施する。			0.30	予定された業務はすべて実行され、加えて記載できない案件1件を実施した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		三原 穂		所 属		法文学部 国際言語文化学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	「TOEIC演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力する。				0.30	「TOEIC演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力した。前者授業では実践的な社会科学的視点、後者の授業では古典的教養の重要性を強調した。いずれにおいても大局を見ることが肝心であることを力説できたように思われる。				
研究	0.40	2017年度には、昨年度同様、海外誌に英語の学術論文を引き続き投稿する。				0.40	海外誌に英語の学術論文を4本投稿し、うち1本の掲載が決定しそうである。				
社会貢献	0.05	一般の方々にも理解してもらえるような堅くない内容の書籍の刊行について計画しはじめる。				0.05	2018年1月31日に一般向けの書籍『ケルトを知るための65章』(明石書店)を共著として出版することができた。				
管理運営	0.20	予算委員会、紀要委員会およびFD委員会等の委員として、関連の仕事に携わる。				0.20	予算委員会、紀要委員会およびFD委員会等の委員として、関連の仕事に携わった。				
	0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの人生がいかに厳しいものになるかを自覚させ、社会人として生き残っていくための方策などを「歴史から得られる教訓」の重要性を強調しながら示したい。				0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの人生がいかに厳しいものになるかを自覚させ、社会人として生き残っていくための方策などを「歴史から得られる教訓」を通して示したことは、教育・学生支援の欄で述べたとおりである。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		山城 新	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	<p>夜間主3年次の指導教員として学生の修学指導ならびにその他の学生生活に関わる指導や助言をする。前学期の学部教育では、「初期アメリカ文学」、「初期アメリカ文学」、「上級英語演習」、「異文化理解」並びに総合環境学概論の世話人として登録や成績提出などのとりまとめを行うと同時に講義も1回担当する。大学院博士課程前期では「19世紀アメリカ文学特論」と「国際言語文化特別演習I」と「国際言語文化特別演習III」を担当し、博士課程後期では指導教員として留学生を指導している。更に「比較地域文化演習科目」を分担で担当している。後学期の共通教育担当科目は「環境と文学」を担当すると同時に環境副専攻の科目を1講担当する。後学期大学院科目は国際言語文化特別演習IIとIVを担当し、前学期に引き続き後期課程の学生の論文指導を行い、比較地域文化演習科目を分担で担当する。各シラバスに記載されている教育目標を達成する。総合環境学副専攻について科目を提供し、その他副専攻プログラムの拡充や検討に携わる。</p>			0.25	<p>夜間主3年次の指導教員として学生の修学指導ならびにその他の学生生活に関わる指導や助言をした。前学期の学部教育では、「初期アメリカ文学」、「初期アメリカ文学」、「上級英語演習」、「異文化理解」並びに総合環境学概論の世話人として登録や成績提出などのとりまとめを行うと同時に講義も1回担当した。大学院博士課程前期では「19世紀アメリカ文学特論」と「国際言語文化特別演習I」と「国際言語文化特別演習III」を担当し、博士課程後期では指導教員として留学生を指導している。更に「比較地域文化演習科目」を分担で担当した。後学期の共通教育担当科目は「環境と文学」を担当すると同時に環境副専攻の科目を1講担当した。後学期大学院科目は国際言語文化特別演習IIとIVを担当し、前学期に引き続き後期課程の学生の論文指導を行い、比較地域文化演習科目を分担で担当した。各シラバスに記載されている教育目標を概ね達成した。総合環境学副専攻について科目を提供し、その他副専攻プログラムの拡充や検討に携わった。</p>		
研究	0.20	<p>国際沖縄研究所の発行するIJOS:International Journal of Okinawan Studiesの編集委員として編集に携わり、本年度の出版計画を遂行する。研究代表者として科学研究費補助金(基盤研究C)の最終年度の研究計画を遂行する。パナマ・太平洋万博博覧会についての資料集をアティーナプレスより編者として9月に出版する。</p>			0.20	<p>国際沖縄研究所の発行するIJOS:International Journal of Okinawan Studiesの編集委員として編集に携わり、本年度の出版計画を遂行する予定である(1月31日時点)。研究代表者として科学研究費補助金(基盤研究C)の最終年度の研究計画を遂行した。パナマ・太平洋万博博覧会についての資料集をアティーナプレスより編者として9月に出版した。</p>		
社会 貢献	0.25	<p>前学期の「総合環境学概論」ならびに後学期の学部共通教育科目「環境と文学」を公開講座として、社会人学生を受入れ、地域の社会人教育に貢献する。</p>			0.25	<p>前学期の「総合環境学概論」ならびに後学期の学部共通教育科目「環境と文学」を公開講座として、社会人学生を受入れ、地域の社会人教育に貢献した。</p>		
管理 運営	0.30	<p>国際沖縄研究所のアメリカ研究部門の併任教員を務める。学外では学会(ASLE文学・環境学会)のコンピュータセンター委員としてメーリングリストの管理運営をする。学部将来計画委員会委員として学部改組の準備に携わる。学部教育委員として英語系カリキュラムの運営と実務管理にあたる。全学学士教育委員会の委員としてURGCCの運営に携わる。学部改組関連委員(組織運営検討WG,入試広報検討WG,教育検討WG)として新学部発足ならびに準備作業に従事する。</p>			0.30	<p>国際沖縄研究所のアメリカ研究部門の併任教員を務める。学外では学会(ASLE文学・環境学会)のコンピュータセンター委員としてメーリングリストの管理運営をした。法文学部将来計画委員会委員として学部改組の準備に携わった。学部教育委員として英語系カリキュラムの運営と実務管理にあたった。全学学士教育委員会の委員としてURGCCの運営に携わった。学部改組関連委員(組織運営検討WG,入試広報検討WG,教育検討WG)として新学部発足ならびに準備作業に従事するとともに、更にブレ代議会構成委員として新学部関連議事に関わった。</p>		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		呉屋 英樹	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.25	学生の理解を深める為、興味ある講義への取り組みを工夫する。特に学生中心のアクティブな学習方法を確立させる。		0.20	概ね達成できた。今年度も引き続き学生からのリフレクションを活用して良い点、改善すべき点を確認できた。			
研究	0.25	獲得した科研費を活用し、さらなる研究を行い、関係する学会・学術誌に掲載されるよう取り組む。		0.25	科研費を利用して行った研究結果を沖縄英語教育学会で発表したり、教育改善を行っている専門学校でのFDを依頼されたりと研究活動の充実が図られた。ますます今後の研究活動につなげていきたい。			
社会貢献	0.20	教員免許更新講習や、学外に於ける英語教育関係の研究団体や地域での役割を果たす。		0.20	沖縄英語教育学会の事務局長として積極的に活動した。他の研究団体との連携を深めて講演会活動を計画実施することができた。教員免許更新講習や、小学校教諭への中学校英語免許付与に関わる活動、沖縄カトリック中高でのスピーチコンテストの審査を行なった。また地域の公立学校と連携し、教職希望学生のサービスラーニングを行い、地域の教育支援や「子の貧困問題」について積極的に取り組んだ。			
管理運営	0.15	各種委員会(教員養成運営委員会、FD委員会)でのスムーズな運営を目指す。		0.15	入試に関する業務に携わり、またGTEC運営に携わるFD委員会、それから教員養成運営委員会に参加した。またその他大学運営に関わる業務をこなす事が出来た。海外大学・大学院との交流提携を模索してきたが、米国インディアナ州のボールステイト大学及び大学院との部局間交流を締結することができた。			
進路指導	0.15	学生の教職関係や、留学希望の学生に対してガイダンスや面談を積極的に行う。また指導教員として学生の進路に関わる意識の実態把握に務める。		0.20	教職関係のみならず、学生の英語力向上の為の面談を複数回行った。また卒業研究を目指している3年生に助言を行う事が出来た。特に4年後期学生の卒業に関わる指導を精力的に行なった。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		Davis Christopher Michael	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	明確なシラバスに基づいて講義を行う。英語語学系の授業は、できるだけ英語で行い、学生によるスピーキングとディスカッションの時間を重視する予定である。大学院の博士課程前期の指導教員として指導する学生の研究計画に向けたガイダンスを行い、定期的に学生と研究についての相談を行う予定である。海外文化研修の引率も行う。		0.45	設定した目標はすべて予定通り達成した。英語語学の授業の中でのリーディングの授業では、新しいテキストを使い、毎回学生によるスピーキングの機会を設けた。また、言語学系の授業においても、英語のテキストを使い、毎週英語でのリーディングと英語による講義とディスカッションによって英語力に向けた授業を行った。博士課程前期で指導している学生に定期的に会い、修士論文に向けた指導を行った。夏には、海外文化研修の引率も行った。	
研究	0.35	沖縄語の証拠性についての論文を完成させて、出版する。去年に発表した「エクスプレシヴ」(expressive)意味についての共同研究を続けて、今年度内に国際雑誌に提出する予定である。八重山語の比較研究とドキュメンテーションを続けながら、デジタル資料としてまとめる。		0.30	沖縄語の証拠性に関する論文を予定通りに出版した。意味論の共同研究は進んでいるものの、論文はまだ出版されていない。その代わりに、今年から始めた八重山語小浜方言の研究成果は、今月中に出版される。八重山語の比較研究も定期的に行い、科研費をも申請した。また、国際学会等で研究成果を数回発表した。	
社会貢献	0.10	八重山語の学習資料に向けた資料を公開する。		0.15	今年度の夏に、宮良小学校で島言葉の授業を行った。また、今年度から、これまで行ってきた八重山語宮良方言のデータをベースにして、学習者向けのブログとポッドキャストを始めた。ポッドキャストは、これまで8回も作り、ブログの方で学習者に向けた文法説明等も定期的に行っている。URL: ryukyulang.org/ooritaboori	
管理運営	0.10	将来計画委員会・代議会代議員: 准教授代表・外国語センター運営委員会委員として努力する。		0.10	各委員会の仕事を予定通りに行った。将来計画委員会の下に研究推進専門委員会が設置されることになって、その委員としても努めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		山里 絹子	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	今年度初めて、専攻の必修科目である「基礎演習」「メディアの英語」を担当するため、授業の準備と振り返りを十分に行う。また、今年度初めて一年次指導教員(昼間主)を務めるため、他の先生方と連携を密にとり、学生の指導に当たっていきたい。		0.00		
研究	0.45	(1) 科研基盤B「アメリカ型グローバリズムと島嶼地域」(代表・喜納育江先生)の研究分担、(2) 科研基盤C「越境的ネットワークの発展と拡散」(代表・加藤潤三先生)の研究分担、(3) 科研若手研究(B)を申請する (4) 琉球大学女性研究支援員制度の利用と研究の取り組み (5) 上記の研究成果を論文二つにまとめ学術誌へ投稿する。		0.00		
社会貢献	0.02	特になし。ハワイ東西センター同窓会役員		0.00		
管理運営	0.08	英語系教育委員		0.00		
計	1.00			0.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜納 育江	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	①共通教育科目:「英語講読演習上級」(前期)、「英語講読演習中級」(後期)、「キャリアデザインとジェンダー」コーディネーター、「総合環境学概論」オムニバス1回担当②法文学部英語文化科目担当:「リーディングⅢ」、「ライティングⅠ」、「比較文学演習」、「20世紀アメリカ文学」、卒業指導5名、留学生Independent Study1名 ③人文社会科学部研究科科目提供:アメリカ女性文学概論および演習;総合演習、アメリカマイノリティ文学特論および演習(博士後期);博士学位論文指導(副査)1件;④国際連携教育の推進⑤その他、留学や奨学金のための推薦書をはじめ、学生から要望のある進路相談には出来る限り対応する。		0.30	①全て担当した。②全て担当した。③ 全て担当した。④カリフォルニア大サンタクルーズ校の引率教員および学生との交流(7月)、シカゴDePaul大学の学生たちへ沖縄の文学に関する講義を担当。JSPS博士研究員にメキシコ人学生より受入要請があり応募書類作成に協力。⑤学生交流ロータリー奨学金推薦書、交流協定校への推薦書、業務スーパー奨学金への推薦書、住友留学基金への推薦書など。うち1名が交流協定校のフォートルイス大学への派遣が決定。	
研究	0.30	①科研費基盤B「アメリカ的グローバリズムと島嶼の文化的社会的変容に関する研究」(H28-30) 研究代表者; ②九州大学・小谷耕二教授代表・基盤B(「ホームランド」の政治学～アメリカ文学における帰属と越境の力学に関する研究)の研究分担。③翻訳、書評論文、研究論文の出版、④国内外での学会発表・学会活動		0.30	①および②については今年度の研究計画に従い、研究を遂行した。③『21世紀から読むアメリカ文学』(早瀬博範編著・英宝社、2018年3月刊行予定)で「チカーノ文学」を担当。④(役員)ASLE-Japan/文学・環境学会広報委員;アメリカ学会理事;アメリカ学会平成29年度大会国際ワークショップ司会:(招待発表)日本英文学会中部支部大会アメリカ文学部門シンポジウムパネリスト(H29/10月、福井大学)。	
社会貢献	0.10	①地域社会からの協力依頼(男女共同参画施策に関すること、翻訳事業、派遣留学等審査員)には積極的に対応するようにする; ②一般財団法人「竹村和子フェミニズム基金」理事・審査員③学術的貢献(論文査読、各種審査員)		0.10	①沖縄県男女共同参画審議会・副会長;ひめゆり平和祈念資料館英語監修②一般財団法人「竹村和子フェミニズム基金」理事・審査員を務めた。③今年は特に依頼されなかった。	
管理運営	0.30	①ジェンダー協働推進室長、②国際沖縄研究所併任教員・国際学術誌IJOS編集委員長; ③新学部入試広報WG委員、英語文化専攻オープンキャンパス委員、大学院教育プログラム委員;④その他、大学の要請には可能な限り対応する。		0.30	①ジェンダー協働推進室長として、JST「ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ」事業を実施; Gender Summit10(OISTサテライト開催)運営委員②国際沖縄研究所併任教員;国際学会誌IJOS編集委員長;研究推進委員③新学部入試広報WG委員、英語文化専攻オープンキャンパス委員、大学院教育プログラム委員④本学が主催した2017RETI(島嶼間大学ネットワーク)国際会議運営委員。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新城 郁夫	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	①共通教育指導においては、人文学的基礎と大学における研究の動機づけを学生たちに促す。②専門教育科目および大学院教育においては、特に日本近代文学と近現代沖縄文学の関連性についての応用的研究の実践にむけて、指導を徹底していく。			0.35	①、②の目標をすべて達成した。		
研究	0.35	科研費テーマの「沖縄文学成立に関する基礎研究」についての研究論文を発表し、同時に、国内外の学会会議やシンポジウム等で、口頭発表を行う。			0.35	論文3本を学術雑誌に発表した他、共著1冊を刊行した。また、明治大学で発表を行うなど、当初の目標を超える達成があった。		
社会 貢献	0.10	大学における社会人公開講座等(共通教育「琉球アジア文化入門」)の機会を最大限に活用し、専門知の地域社会への還元を図り、社会貢献を積極的に果たしていく。			0.10	当初の目標を達成した。		
管理 運営	0.10	大学院領域主任および学部改組ワーキング・グループ委員としての仕事を行う。			0.10	当初の目標を達成した。		
	0.10	卒論、修論、博士論文の指導と就職指導を行っていく。			0.10	当初の目標を達成した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大胡 太郎	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図る。 教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実させる。			3.00	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図った。 教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実させた。		
研究	0.20	古代文学会の維持会員、物語研究会の会員としての活動を充実させる。学会発表をおこなう。 教職科目(国語)に関わる論文を執筆する。			3.00	古代文学会10月例会にて学会発表「崎山多美『クジャ幻視行』—語り得ぬ〈記憶〉・記され得ぬ〈記録〉—」をおこなった。 紀要「琉球アジア文化論集」第3号に、教職科目(国語)に関わる論文「仲根政善「浄魂を抱いて」の内容構成と、補助教材による授業構成の試み」を執筆した。		
社会 貢献	0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義する。			2.00	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義した。		
管理 運営	0.30	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図る。			2.00	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図った。		
計	1.00				10.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 守	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	共通教育前期2コマ・後期2コマ、学部前期4コマ・後期4コマ、博士前期課程前期2コマ・後期2コマ、博士後期課程前期2コマ・後期2コマの授業を担当する。2、学士論文・修士論文・博士論文提出者の論文指導をおこなう。		0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。	
研究	0.30	1、歴代宝案の文書学的研究をおこなう。2、「琉球処分」と脱清人について研究をおこなう。3、琉球王国研究文献目録を作成する。4、冊封関連の研究をおこなう。5、戦後、台湾における沖縄籍引揚者に対するインタビュー調査を実施する。6、台湾大学所蔵「冠船日記」の翻刻作業をおこなう。5、戦後台湾からの引き揚げに関する研究をおこなう(科研基盤研究C)		0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。	
社会貢献	0.20	1、歴代宝案調査専門委員会副委員長として歴代宝案関連資料の調査収集をおこない、歴代宝案編集委員として『歴代宝案』第6冊の訳注本の作成に取り組む。2、台北故宮博物院における中琉関係档案史料の編集事業に協力する。3、故宮博物院と協働で「清代琉球史料彙編」を刊行する。4、中琉歴史関係国際学術会議を福建師範大学と共同開催する。		0.20	左記の項目を予定通り全て履行した。	
管理運営	0.20	1、進路支援委員会の委員業務を務める。2、附属図書館研究開発室員としての業務を遂行する。		0.20	左記の項目を予定通り全て履行した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		